

364

原発性肺多発癌 7 例の検討

東京都立駒込病院外科

○水渡哲史、池田高明、酒井忠昭

同 病理

深山正久、小池盛雄

肺癌の発生頻度は年々増加してきている。しかし原発性肺癌が重複して発生した肺多発癌症例の報告はいまだ少なく、十分な検討が行なわれているとはいえない。われわれは7例の肺多発癌症例を経験したので報告する。

当院外科において、昭和52年1月から昭和59年12月までに手術を行った肺癌症例は323例であり、このうちの肺多発癌症例7例(2.17%)を対象とした。性別は男6例、女1例であり、年齢は52才から73才(平均62.9才)であった。これら7例のうち、1例に下咽頭癌の既往がみられたが、他の6例に他臓器癌の既往はなかった。職歴はまちまちであったが、7例全例が重喫煙者であった。家族歴に癌を有するものは1例だけであった。これら7例の多発肺癌発見時期をみると、6例は同時性であり2つの腫瘍に対して同時期に治療を行ったのに対して、他の1例では初回手術から6年6ヶ月後に対側肺の癌が発見され再手術を行った。7例の組織型は扁平上皮癌と扁平上皮癌の組合せが4例と多く、扁平上皮癌と腺癌、腺癌と腺癌、腺癌と小細胞癌の組合せが各1例であった。術前に肺多発癌の診断をえた症例は4例であり、他の3例はいずれも切除肺の中に他の肺癌が発見されて多発癌の診断をえた症例である。切除肺で発見された3例はいずれも肺野型早期癌(腺癌2、扁平上皮癌1)であった。肺癌の発生部位をみると、同一肺葉内に発生した症例は3例で、いずれも切除肺の中に早期肺癌を発見した症例である。同側他葉に発生した症例は1例で、肺野型肺癌と肺門型早期扁平上皮癌の組合せである。残りの3例は両側肺に発生した症例で、1例が異時性、2例が同時性であり、このうちの1例は両側とも早期肺門型扁平上皮癌であった。7例のうち2例は早期肺癌と早期肺癌の組合せであり(いずれも扁平上皮癌)、4例は一方のみが早期肺癌であった。以上からわれわれの経験した症例においては、同一肺葉内に発生した多発癌の一方は早期肺癌であり、X線写真やCTなどの画像診断の上で他の一方の肺癌の影響をうけるために術前診断がいずれも困難であった。(まとめ)われわれの経験した7例の肺多発癌症例は全例重喫煙者であった。扁平上皮癌の組合せが多かった。早期肺癌が6例にみられた。同一肺葉内に発生した多発癌の診断は困難であった。

365

日本病理剖検輯報よりみた重複癌(1958—82) —肺癌を含む症例を中心にして—
浜松医科大学第一病理 森田豊彦

目的：母教室の東大医学部病理学教室の肺癌を含む重複癌剖検例につき第17回本学会の要望課題で報告した。母教室肺癌剖検例との比較の意味で第24回本学会より日本病理剖検輯報の肺癌症例につき検討報告しているが、今回はその肺癌を含む重複癌症例につき検討して報告する。

方法：日本病理剖検輯報第1—25輯(1958—82年度)に記載された年令・性別の明らかな症例より重複癌を選び、悪性腫瘍の種類、主と従悪性腫瘍を決め、肺癌症例についてはその組織型を検討した。結果を各年及び5年区分(第1—5期)して推移をみた。

結果：1. 全体の傾向 肺癌を含む重複癌は1960年男性10、女性4、70年男性48、女性19、80年男性226、女性78例と漸増している。全剖検例中の重複癌の割合は男女とも1期の0.4%から男性4%、女性3%へと、悪性腫瘍中の重複癌の割合も男女とも1期の1%から男性6%、女性5%へと漸増。全重複癌中肺癌を含む症例は男性28%、女性18%前後を占め、胃癌を含む重複癌症例の約3分の2の頻度である。

2. 年令分布 この期間に重複癌全体も男性は60から70代へ、女性は50から70代ピークへと高令化があったが、肺癌を主及び従とする重複癌症例にもそれぞれ同様の高令化が認められた。

3. 肺癌を主とする重複癌 従となる相手の癌は男性では胃、前立腺、肺癌、女性では子宮、甲状腺、胃癌が多い。組織型では肺癌単独癌に比し、肺癌が主の男性肺癌は扁平上皮癌が40%と多く、腺癌が30%を占め少ないが、男女とも肺癌単独癌の70代組織型分布に似る。肺癌が主の女性肺癌は腺癌が50%弱と少なく、扁平上皮癌が21%、小細胞癌が16%と多い。

4. 肺癌を従とする重複癌 主となる相手の癌は男性で胃、肺、肝癌、女性は胃、肺、子宮癌が多い。組織型では肺癌単独癌に比し、肺癌が従の男性肺癌は腺癌は36%だが、扁平上皮癌が42%と特に多く、小細胞癌が7%と特に少ない。女性では腺癌は52%とやや少なく、扁平上皮癌30%と特に多く、小細胞癌7%が特に少なく、男女似た傾向が認められた。

5. 肺の多発癌 症例数が漸増し、特に5期に症例が多いが、男女比が約5と男性に多い。男女とも70才代症例が特に多い。組織型では、男性の主の肺癌では腺癌が20%弱と少なく、小細胞癌が約30%を占め特に多い。男性の従の肺癌では扁平上皮癌が約半数を占め特に多い。

女性の主の肺癌でも小細胞癌が半数近くを占め特に多く、従の肺癌でも扁平上皮癌が多い。